

のためにこのころのようすはよくわかりません。

3 越後の国と千屋郷

越の国から 五、六世紀になると大和朝廷は各地の豪族を国造に任命して地

越後の国へ 方を支配することに力をそそぎました。大化改新のあと、国郡制がとられ、今の北陸地方は越国といわれました。あとで越国が越前・越中・越後の三国にわかれたのです。しかしそれはいつのことかははっきりしません。

魚沼郡

平安時代になると小千谷の地域のこと記録の中にあらわれます。

千屋郷

「倭名抄」という書物によると魚沼郡があり、それが賀弥・那珂・苅

上・千屋の四郷にわかれています。千屋郷は今の小千谷市にあたります。

この千屋郷は「小千谷」の名の起りなのです。今の地名としては、千谷川・千谷・茶郷があり、そしてこの間に茶郷川が流れています。千屋郷は茶郷川の流域をいうのでしょうか。奈良時代から平安時代にかけて使われたといわれる須恵器が茶郷川の流域で発見されているからです。

また千谷川や、その西の小栗田原^{こわだ}台地のまわりに古い住居跡^{あど}が多く認められます。そのことからここは中心地であり、「千屋」（多くの家屋をいう）と名づけられたという考えもあります。

千谷から

茶郷川が信濃川に流れこむあたりの千谷と、茶郷川上流の茶郷と

小千谷へ

のどちらが千屋郷の中心であったのでしょうか。川の名まえはふつ

う上流の地名などから名づけられることが多いといわれています。茶郷川の上流に「郡殿池^{こぢんのいけ}」があります。この池のほとりに郡殿と呼ばれた豪族^{ごうぞく}が住み、池の水利権をもっていました。郡殿は郡や郷を支配した豪族で、そこから池の名まえがつけられたといわれています。そのことから千屋郷の中心は茶郷であったのではないかと想像されるわけです。この「千屋郷」は信濃川によって広い世界につながっていました。

その後、交通の便のよい茶郷川と信濃川の合流地である「千谷」に中心が移ったのでしょうか。そして、千谷に大集落がつくられました。

「小千谷」という地名は、この「千谷」の付近にあったことから起こり、「小千谷」はもともと「千谷」の一部であったと思われる。